

にみると、5万円未満の人の56.6%、5～15万円の人68.0%、15万円以上の人の89.7%が「心配ない」としている（図1-3-2）。

### (3) 日常生活の最も高い不安は健康や病気のこと

「日常生活の不安」についてみると、健康や病気のこと（58.9%）とする人が最も多く、次いで、寝たきりや身体が不自由になり介護が必要となる状態になること（42.6%）、自然災害（29.1%）、生活のための収入のこと（18.2%）、頼れる人がいなくなること（13.6%）となっており、一人暮らし高齢者のリスクとして指摘されている「介護」、「社会的孤立」、「貧困」に関連した不安が挙げられている。その中でも健康状態が大きな不安であることが分かる（図1-3-3）。

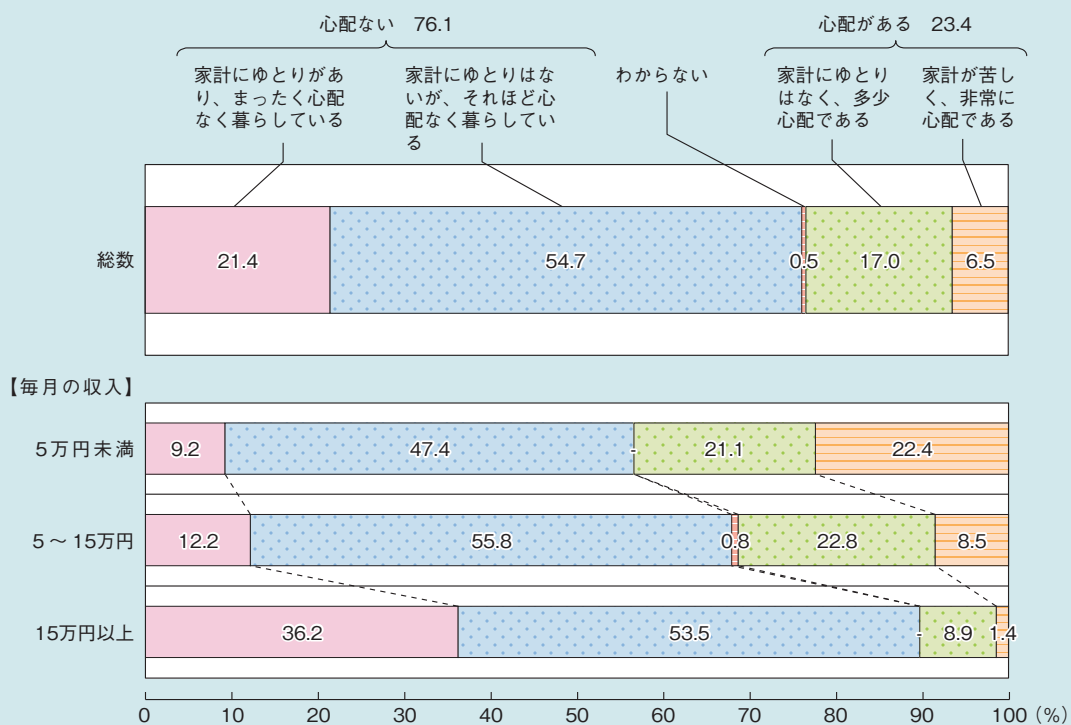
多くの一人暮らしの高齢者にとっては、日常生活の中で病気や介護が必要な状態になること、自然災害の被害に逢うことなどに不安を感じるとしており、これらの不安要因を軽減し安全で安心な暮らしを営むため、地域活動などを通じた健康状態の確認や災害時の避難対策など各種の支援も必要であろう。

## 2 人とのつきあいに関する意識

### (1) 半数以上の男性はちょっとした用事では頼りたいとは思わない、あるいは頼める人がいない

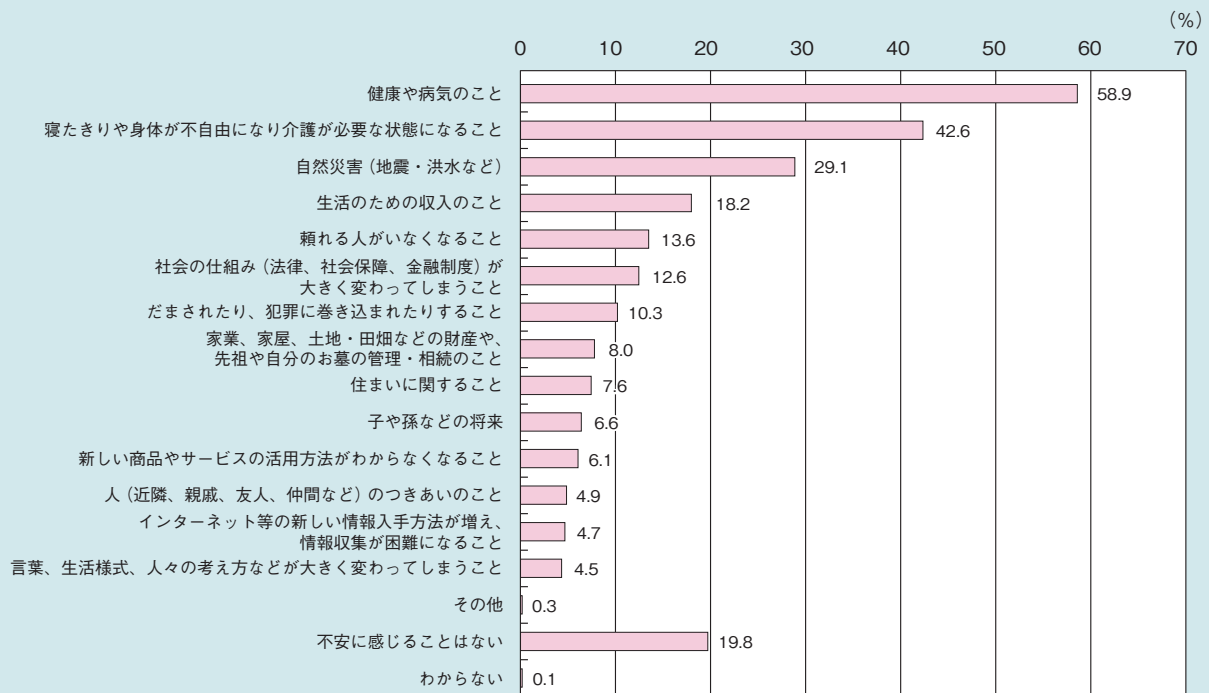
日常のちょっとした用事を頼みたい相手を見ると子供がいる女性は「子」（46.1%）が最も多く、次いで、「そのことで頼りたいとは思わない」（20.5%）となっている。子供がいない女性は「そのことで頼りたいと思わない」（30.8%）が最

図1-3-2 現在の暮らし向き



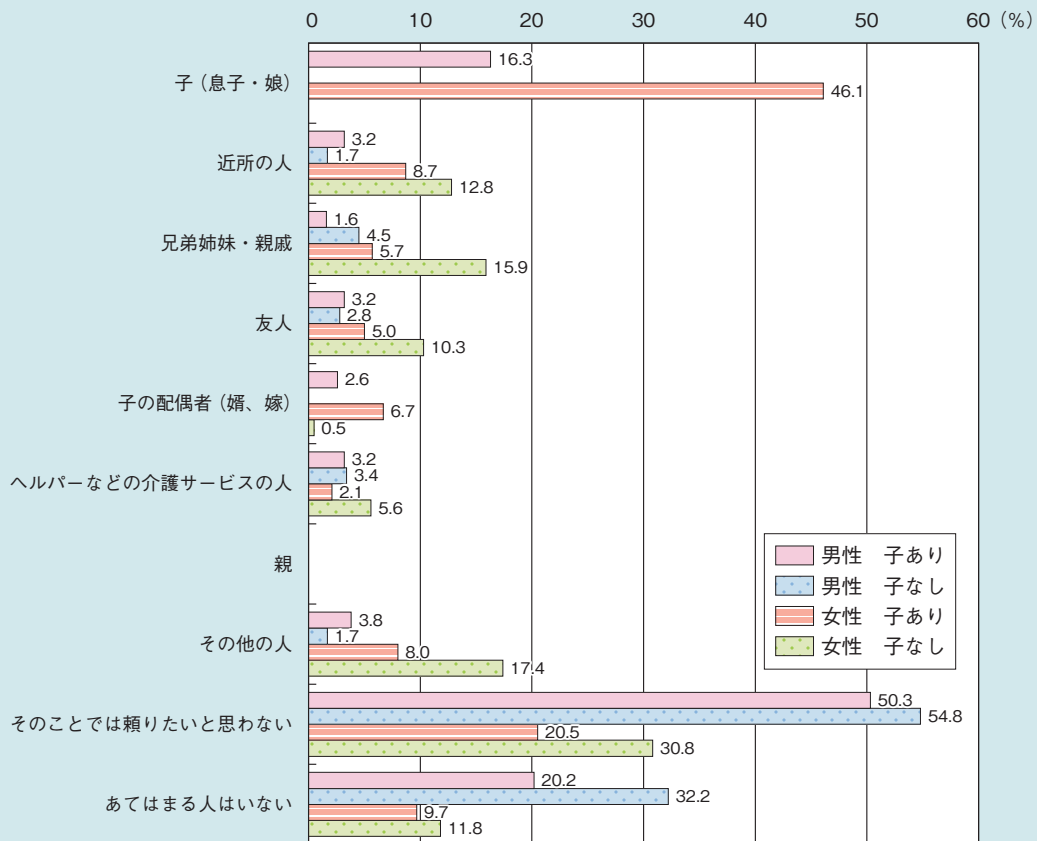
資料：内閣府「一人暮らし高齢者に関する意識調査」（平成26年度）  
 （注）対象は65歳以上の一人暮らしの男女

図1-3-3 日常生活の不安（複数回答）



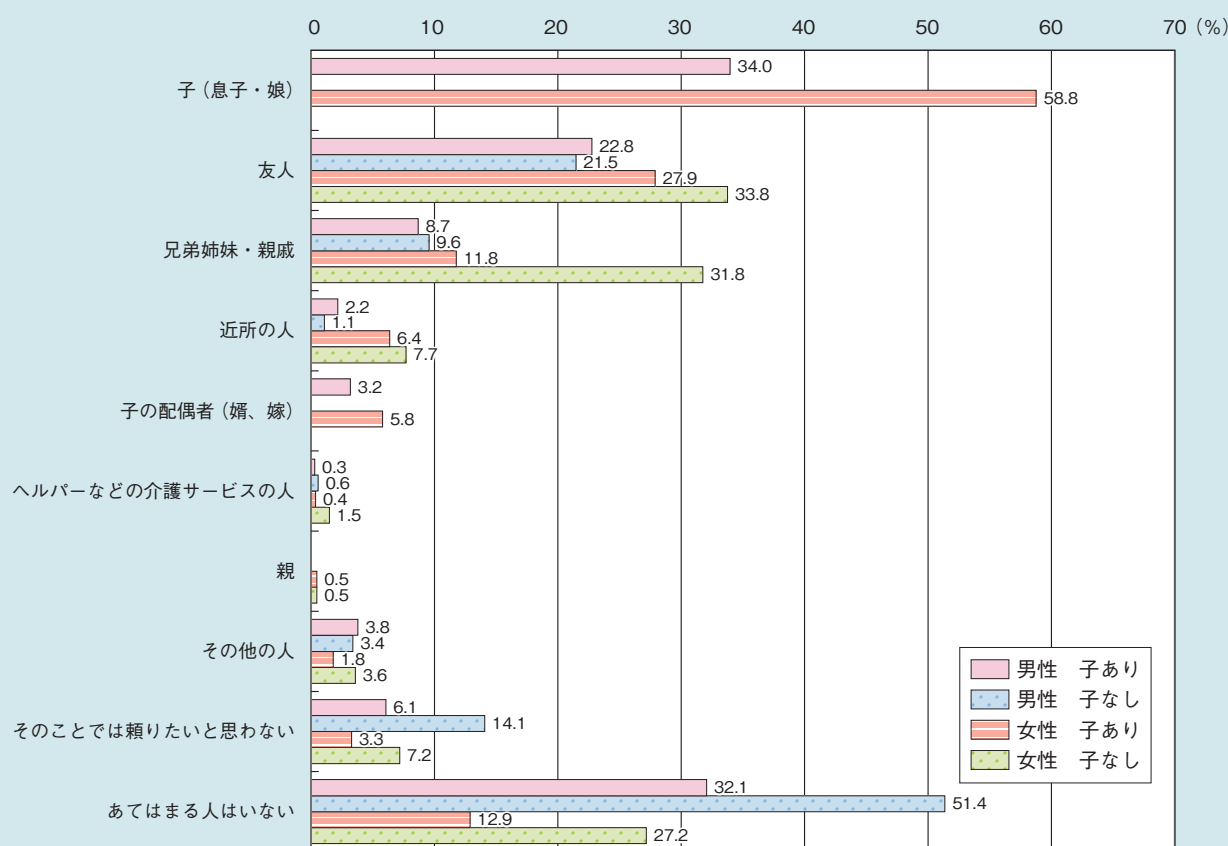
資料：内閣府「一人暮らし高齢者に関する意識調査」（平成26年度）  
 （注）対象は65歳以上の一人暮らしの男女

図1-3-4 ちょっとした用事を頼む人（複数回答）



資料：内閣府「一人暮らし高齢者に関する意識調査」（平成26年度）  
 （注）対象は65歳以上の一人暮らしの男女

図1-3-5 一緒にいてほっとする人（複数回答）



資料：内閣府「一人暮らし高齢者に関する意識調査」（平成26年度）  
 (注) 対象は65歳以上の一人暮らしの男女

も多く、次いで、親戚や友人以外の「その他の人」(17.4%)、「兄弟姉妹・親戚」(15.9%)「近所の人」(12.8%)と多様である(図1-3-4)。

一方、男性は子供の有無に関わらず「そのことで頼りたいと思わない」が最も多く(子供あり50.3%、子供なし54.8%)、次いで「あてはまる人はいない」が続く(子供あり20.2%、子供なし32.2%)。

## (2) 一緒にいるとほっとするのは子。そのほか男性は「あてはまる人はいない」、「友人」が多い

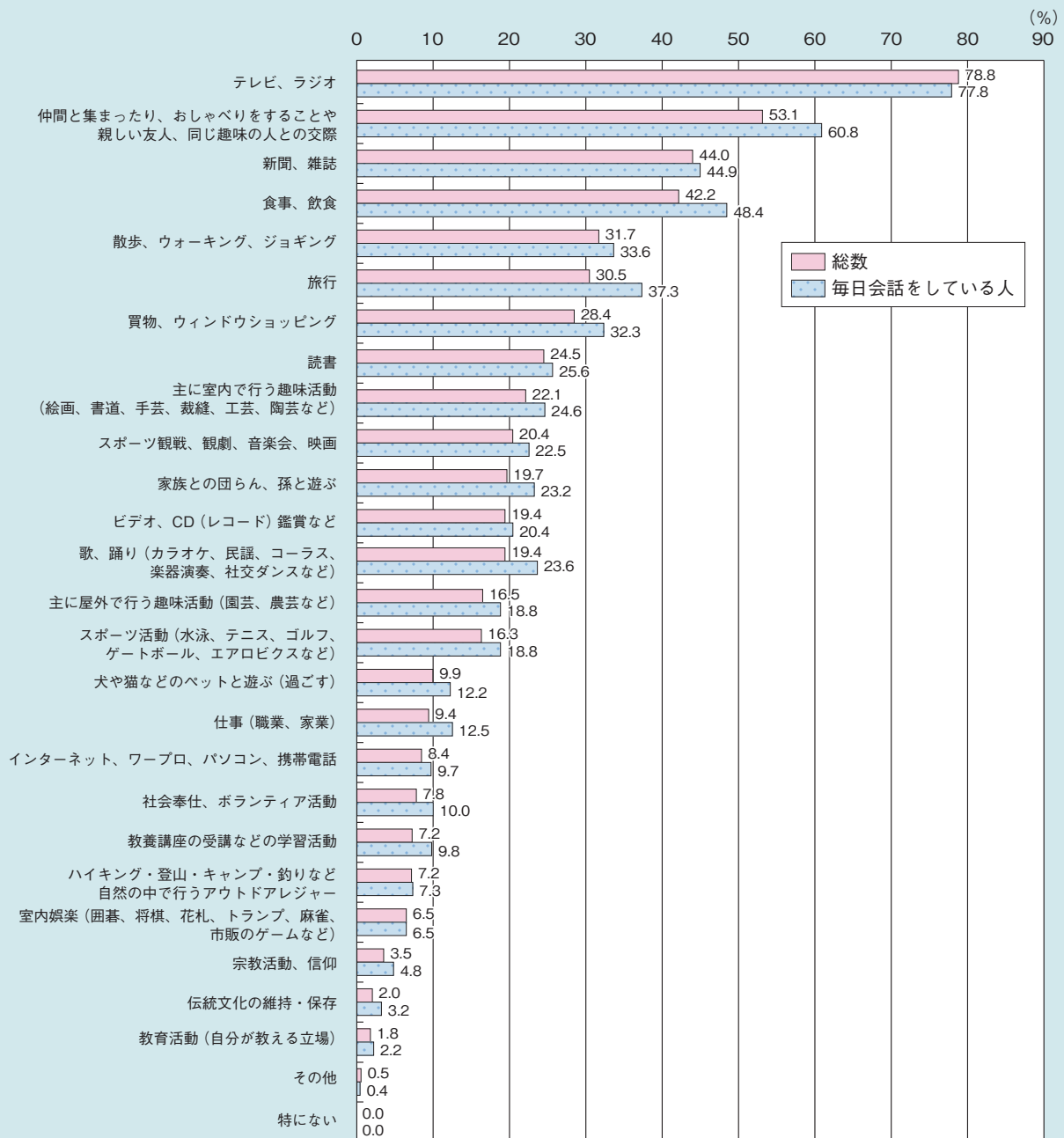
一緒にいてほっとできる相手を見ると、子供がいる人については、男女とも子(男性34.0%、女性58.8%)が最も多いが、次いで、

男性は「あてはまる人はいない」(32.1%)、女性は「友人」(27.9%)となっており、男性の1/3は一緒にいるとほっとする相手はいない。一方、子供がいない人については、男性は「あてはまる人はいない」(51.4%)が半数以上となり、女性は「友人」(33.8%)、「兄弟姉妹・親戚」(31.8%)、「あてはまる人はいない」(27.2%)と多様である(図1-3-5)。

## (3) 会話の頻度が高いほど楽しみが多い

一人暮らし高齢者の「現在の楽しみ」の上位5位をみると、「テレビ・ラジオ」(78.8%)、「仲間とおしゃべり」(53.1%)、「新聞雑誌」(44.0%)、「食事」(42.2%)、「散歩、ウォーキング、ジョギング」(31.7%)となっている。

図1-3-6 現在の楽しみ（複数回答）



資料：内閣府「一人暮らし高齢者に関する意識調査」（平成26年度）  
 （注）対象は65歳以上の一人暮らしの男女

会話の頻度別にみると、「毎日会話している」人はほとんどの項目で総数を上回っており、楽しみの幅が広いといえる。また、毎日会話している人の上位5位をみると「散歩、ウォーキング、ジョギング」にかわり「旅行」(37.3%)が5番目に多い(図1-3-6)。

子供のいない一人暮らし高齢者にとっては、特に男性において、一緒にいてほっとできる人や日常のちょっとした用事を頼むことができる人がいないという者が多い状況であり、子供や兄弟姉妹・親戚のような垣根の低いつきあいができる、地域の環境づくりが必要であろう。